

外部評価意見への対応方針

番号	年月	外部評価意見	対応方針	分類
1	H30.6	各事業所・企業が設置している防犯カメラの角度を公道に向けるよう区・警察・町会が連携し、協力依頼を実施してほしい。	防犯協会に加盟している事業所・店舗を手始めに、公道付近にカメラ角度を向けていただくよう、区・警察が連携して協力依頼するとともに、区から地域へ協力が得られそうな事業所・店舗の情報提供を呼びかけていく。	①
2	H30.6	防犯抑止力向上のために、防犯プレートの作成枚数を増やしてほしい。	地域の要望にできるだけ応えられるよう、プレート作成枚数の増について検討していく。	①
3	H30.6	防犯プレートの色は白色だと目立たないので、目立つ色にして欲しい。	現在の白色プレートを、抑止効果のある目立つ色に取り換えていく。また、今後作成する防犯プレートも目立つ色にしていく。	①
4	H30.6	「車上狙い」「部品狙い」が多発しているが、どんな対応をするのか。	街頭犯罪件数は毎月拵んでいる。「車上狙い」は車だけではなく、駐輪している自転車にも当てはまり、注意喚起する啓発ポスターを企業に掲示依頼するとともに、区ホームページに掲載し防犯啓発を推進していく。	①
5	H30.6	「高齢者交通安全研修会」の回数を増やしてほしい。「ふれあい喫茶」などの機会を通じて、「高齢者交通安全」や「特殊詐欺」のことについて、説明していただきたい。	「高齢者交通安全研修会」や「特殊詐欺の出前講座」は、既に警察と連携し区民センターや地域の老人会等で実施しているが、引き続き、地域からの要望に応じ実施していく。	①
6	H30.6	高校生の自転車マナーの悪さが目立ち、通学時間帯には危険な運転をしている学生が多いため、先生に、通学路途中にも立ってもらい実態の把握をしてもらったらかどうか。	学校協議会の場や学校へ直接連絡するなどして、学生の自転車マナー等を伝え交通安全についての啓発を働きかける。	①
7	H30.6	各年齢層に対する交通安全への意識を向上させてほしい。	スクエアドストレート方式による交通安全教室の開催を様々な広報媒体を活用し広報していく。また、加害者となった場合の罰則や賠償等を伝え加害者とならないための啓発を行う。	①
8	H30.6	今後各地域で実施する「避難所開設運営訓練」において、地域内にある事業所等にも声をかけて、事業所が参加できるような訓練の実施をしてはどうか。	「災害時地域貢献協力事業所」の情報を地域と共有し、今後開催する訓練への参加を区から事業所に働きかけるとともに、地域からも呼びかけを行うよう依頼する。	①
9	H30.6	避難所開設運営訓練を実施する様子を、他地域からも見学に行ってはどうか。	実際に訓練の様子を見てもらうことで、参考となることや気づきがあると思われることから、避難所開設運営訓練を予定している地域とも調整を図り、地域防災連絡会などで訓練の予定等の情報を伝え、見学に来てもらえるように周知する。	①
10	H30.6	災害時に地域の中核となって様々なことを運営できるような人材として、区役所が防災士を育成してはどうか。	各地域において防災士の資格をお持ちの方を探していただきながら、その方の協力を得て、地域の自主防災力向上をめざす。区においても職員の防災士の資格取得をすすめていく。	①
11	H30.6	大災害発生時、電話は通信制限がかかることから通じなくなる。しかし、LINEを始めとするSNSは大災害時でも支障なく使えることから、通信手段として有効に利用したらよいのではないか。	災害時LINEが通信手段としては大変有効であることが実証できている。LINEを積極的に活用するよう、広報紙や区ホームページなどで周知を行う。職員訓練等でも検証を図っていく。	①
12	H30.6	小学校などに設置されている防災行政無線のスピーカーから流れてくる放送が聞き取りにくい。	聞き取りにくいというご指摘は、その都度危機管理室に情報提供を行っている。放送内容が聞き取れなかった場合は、防災行政無線テレホンサービスを活用いただけるよう広報紙などで周知する。	①
13	H30.6	交通安全に関する目標に対するアンケートの取り方について、イベント会場以外にも実施する方法を再考すべきではないか。	現在のアンケートは、「スクエアドストレート学習」会場で、参加者に対して行っている。次回開催時には目標値100%をめざして取り組む。今後は区民アンケート等さまざまな機会を活用してアンケートを実施する。	①

14	H30.7	新しい人が地域振興会(町会)に入らず、町会費を出さなくても、街灯は点いているといったような受益を受けて生活できる現実がある。町会費を払わないと受けられない受益者負担になっていけない限り、これから運営できないと思う。	転入者向けリーフレットを作成し、地域振興会(町会)をはじめ様々な地域団体の加入促進に取り組むとともに、地域振興会(町会)活動等に関する情報提供を広く区民に対して行っていく。	①
15	H30.7	地域活動協議会の立ち上げ以前から行っている事業が、現在は地域活動協議会の活動として行われているが、そのことが地域住民には伝わっていないことがある。	地域活動協議会の認知度向上のため、まちづくりセンターと連携して、様々な機会を通じて活動内容等の周知を図っていく。	①
16	H30.7	昨年実施された「TSURUMIC AWARD」はビジュアル面に評価の重点が置かれ過ぎていた。この評価方法が地域活動協議会の認知度向上につながるか疑問である。	一定の認知度向上につながったと考える。今年度は、より地域住民の関心度がアップするような企画を検討し、各地域活動協議会の協力のもと実施していく。	①
17	H30.7	地域活動協議会の事業でも、町会長が一番活動してくれているが、地域活動協議会の会議の場では地域振興会も構成団体の一つであるという認識にゆっくり変えていかないといけない。	地域活動協議会は、防犯・防災、子ども・青少年、福祉、健康、環境、文化・スポーツのすべての分野において、広く住民全般を対象として市民活動を行うことを目的としているため、民主的で開かれた話し合いを通じて、活動の糸口を見出していくことが重要である。	①
18	H30.7	地域活動協議会の役割は、高齢者への支援と考えるが、地域活動協議会の活動の分野に福祉がない。つなげ隊の活動が非常にわかりにくいものとなっている。事業の検証は出来ているのか。また、つなげ隊は地域活動協議会で役割が果たしているのか。	・委託先である鶴見区社会福祉協議会からその都度報告を受け、課題があれば協議を行っている。本事業を推進するにあたり、今後、地域活動協議会に対する一括補助にむけた検討をしていく。 ・地域福祉コーディネーター(つなげ隊)は、各地域活動協議会ごとに活動されており、各地域ネットワーク委員会の中心的な役割を担っていただいている。	① ②
19	H30.7	区民アンケートでは、つなげ隊の認知度が低いとのことだが、鶴見区全域での数値である。地域別の認知度を数値化すべきではないか。	区民アンケートの地域別データを分析・検討し、その結果を区政会議で提供していく。 なお、地域単位の福祉活動(ふれあい喫茶)などでの参加者アンケート結果によると認知度は高い。	①
20	H30.7	プレママクッキングについて、土曜日に開催したことにより、夫婦での参加が3組あった。料理教室に加え、胎児へのたばこの影響についても話ができて有意義であった。このような取り組みを続けてほしい。	プレママクッキングの他、様々な方を対象者に、内容を工夫し、食推協の皆さんと一緒に食育に関する事業を実施している。今年度は、男性のための料理教室を休日開催することで、働く世代の方へもアプローチしていく予定である。	①
21	H30.7	食育フェスタ・健康展の満足度について、参加者へのアンケートということなので、目標を少し上げてほしいと思う。	すこやかパートナー企業・関係機関の協力も得ながら、体験型のブースをより充実させ、参加者満足度100%をめざす。	①
22	H30.7	待機児童(入所保留児)について、校区別で資料を提供してほしい。	現在、住所別のみ作成している。 今後は、校区別の資料も作成し、ニーズ調査に役立てていくとともに、区政会議で提供していく。	①
23	H30.7	園庭や講堂等のない保育所に関して、グラウンドや区内施設等代替場所の提供はできないか。	保育所が運動会や発表会を実施するにあたり、近くの学校等の施設利用の希望があれば、施設に対し、区役所から協力依頼をすることはできるので、保育所に対して、その旨を情報提供していく。	①
24	H30.7	虐待通報について確認を行う家庭に対して、配慮が必要なのではないか。	虐待通報の確認に訪問する際には、周りの家庭に対して、誰が何をしに来たかはわからないように配慮している。また、通報された家庭に対しては、保護者の負担にならないよう、聞き取りを行う等の対応を心掛けている。	①
25	H30.7	愛 Love こどもフェスタで、保護者の方に対して、子育てサロンへの誘導をされたとのことであるが、効果検証はできているのか。	愛 Love こどもフェスタの開催前後の子育てサロンの利用者数を比較すると、開催後の方が利用者数は増加傾向にある。	①

26	H30.7	児童虐待に関して講演会や学習会を開催してもらっているが、受講しない人を掘り起こす必要があるのではないか。	講演会等に出てこない、出てこれない方たちこそ、支援につなげていく必要があると認識している。関係機関や地域と連携して、きめ細かい周知に努めていく。	①
27	H30.7	就学後の発達障がいに関する相談場所があまり知られていないのではないか。	就学後の児童を含め、発達障がいに関する相談も子育て支援室で実施していることを教育担当とも連携し広く周知に努めていく。	①
28	H30.7	学び舎つるみ等で、百歳体操もプログラムなどに入れていくと、より広まるのではないか。	今年度は台風により中止となった。今後も、いろいろな場面において取り入れていくことを検討していく。	①
29	H30.7	以前の区政会議で、自主的な生涯学習活動による書道の展示発表の場について意見が出ていたが、そういったところはあるのか。あるなら周知をしてはどうか。	区役所2階の区民ギャラリーをご利用いただけることを区HPで広報しているが、今後は、広報紙等も活用するなど積極的に周知に努めていく。	①
30	H30.7	生涯学習推進員連絡会は、今回、区役所と協働して家庭教育支援講座を一般向けに実施する。また、3月にも生涯学習ルームフェスティバル(活動発表会)を開催するが、生涯学習に関する認知度はまだまだだと感じる。	今回、家庭教育支援講座を実施する予定であり、広報周知に取り組む。また、3月の生涯学習ルームフェスティバル(活動発表会)のPR方法も検討するなど、引き続き生涯学習の認知度アップを図っていきたい。	①
31	H30.7	青少年「夢・未来」講座の協力企業について、参画することでメリットがあるということのPRを行ったり、協力企業を前面に出して紹介してはどうか。	取組みについてはFBやHPで紹介しているところであるが、協力企業の名称・イベント名等についても積極的にPRをしていく。	①
32	H30.9	区は鶴見区社会福祉協議会(以下「区社協」という。)に「住民主体の地域福祉ネットワーク活動推進事業」を委託しているが、情報や課題を区役所が共有できているのか疑問だ。地域で起きている課題、事業を行う区社協が抱える課題などは区に伝わっているのか。	「つなげ隊」を含む「住民主体の地域福祉ネットワーク活動推進事業」で得られた情報や地域の課題について、区役所は区社協との定例会議や個別ケースで対応協議している。地域ごとの課題報告を受けると地域保健福祉戦略会議でも情報を共有し解決に向けて検討している。	①
33	H30.9	地域福祉活動は地域活動協議会が担っていかなければいけないというのは、当たり前のことだ。つなげ隊事業を区社協に委託している現状について、「地域福祉活動は地域活動協議会が担う」という方向で検討してほしい。		①
34	H30.9	鶴見区では地域福祉のコーディネーターとして「つなげ隊」を採用し、活動は区社協に事業委託している。地域に対して「つなげ隊」から活動報告や相談内容などの情報提供が、私の地域ではないように思う。	・地域福祉のコーディネーターとして配置した「つなげ隊」が、「地域の人」とのつなぎ役、「身近な相談窓口」として機能するよう、また鶴見区の福祉の取組に活かすことができるよう努める。 ・区役所が得た各地域の福祉課題などを地域に提供し、地域とともにカルテを作成する。	① ②
35	H30.9	「つなげ隊」や「あいまち」は、名前だけは聞き覚えがあるが、実際に誰がいるのかわからない。	これまで区広報紙で「つなげ隊」や「あいまち」を紹介する記事を掲載している(広報紙「つるみ」9月号でも掲載)ほかfacebookなどのSNSでも紹介している。今後とも広報に努める。	①
36	H30.9	児童虐待防止については、ステップファミリーに対して、何らかのフォローすることが最も有効な手段であると考えます。	児童が6歳未満の転入世帯については、ステップファミリーも含め、全件、母子手帳の住所変更手続き時に転入面接を実施し、子育てに対する相談に対応しているが、今回のご意見を踏まえ、更なる対応を検討していく。	①
37	H30.9	平成30年度の取組みに、児童虐待防止活動の項目がなくなっているが、なぜか。	児童虐待防止の取組は当然取り組むべきことなので、運営方針の記載の有無に関わりなく実施すべきことと考えている。今年度も児童虐待防止につながるよう、あらゆるところで横断的に取り組んでいる。	①
38	H30.9	児童虐待に関しては、さまざまな担当に情報が入って、検討会議を行うまでにいろいろな部門が絡んでくるが、区の中で横軸を入れた対策が必要であると思う。区として対処方針を示してほしい。	児童虐待に関する情報はすべて子育て支援室に報告・集約される。その後、要保護児童対策地域協議会で情報共有のうえ、支援方針を検討・決定し、対応している。今後も、区役所内の他担当や関係機関等と連携を密に取って対応していく。	①

39	H30.9	自分自身の出産後に保健師が訪問してくれて相談にのってもらえたことは非常に安心感を覚えた。 子育てサロンなどに行かない、行くことができない保護者への支援として、年に1回でも何かの形で訪問する等できないか？	出産時の訪問のほか、3か月児健診時等に、子育ての悩み等の相談を受けるとともに、子育てサロンや子育て支援センターなどの情報提供を行っている。健診に来ない場合はすべてのお子さんの状況調査を行い、3歳児健診まで切れ目のない支援を行っている。更に支援が必要なご家庭には保健師が電話や訪問により相談を受けたり状況確認をしている。	①
40	H30.9	児童虐待防止については、職員だけでは限界がある。もっと地域連携すべきではないか。	各地域の民生委員、特に主任児童委員と一緒に、定期的に学校等と情報共有や支援について協議・検討を行っているが、もっと裾野を広げ、地域全体で連携した取組み等、方策について検討していく。	①
41	H30.9	市立小・中学校でのサポーター・ボランティア募集やファミリーサポートセンター事業などは広報紙に掲載されている。今後、教育委員会実施の元気アップ事業等を広報紙に掲載することはできないか。	元気アップ事業のひとつである図書ボランティアはサポーター・ボランティア募集として既に広報紙に掲載している。その他の元気アップ事業についても教育委員会とも調整のうえ掲載していく。	①
42	H30.9	避難所開設訓練とは別に、各町会でも防災訓練を単独でやっている。実際に地震が発生した時に、防災リーダーそのほか5人ぐらいが各町会からとられて、町会が手薄になると思うが、どう考えているか聞きたいと思う。	有事に備え、小学校での避難所開設及び運営、各町会での災害対応など各々の役割分担を決める必要がある。そのため地区防災計画の策定に早急に取り組むことが求められており、区としても積極的に支援していく。	①
43	H30.9	同報系無線のスピーカーが聞こえにくいとの話があり、地活協以外の問い合わせの窓口があればよいと思った。 台風時に、情報を得るためのアクセス先を教えてください。	同報系無線のスピーカーについての問い合わせ先は、区役所市民協働課防災担当になる。アクセス先としては、大阪市危機管理室のホームページを開いてもらうと、警報等の情報が得られる。鶴見区のホームページからもリンクができる。また、鶴見区もツイッター等で情報発信をしているので活用いただきたい。	①
44	H30.9	災害時一番大変なのは水の確保である。そのために、区の予算で、小学校や公園等に各地域1つ井戸を掘ることを提案する。	井戸の掘削についての法的規制や費用対効果などメリット・デメリットを検討している。	③
45	H30.9	種花ボランティア活動に予算措置があまりされていないのではないかと。熱中症対策としてお茶等を提供する予算はないのか。	種花活動における種や土代については、予算措置されているが、お茶はボランティアご自身で用意いただいている。 なお、一般的な熱中症対策としての予算措置を検討している。認められればボランティアにお茶等を提供することができる。	②
46	H30.9	民間の情報媒体と連携し、広報をすることはできないか。	現在も地元地域紙やケーブルテレビ等、メディアへの情報提供を毎月行っている。 また、区の子育てイベントを民間の地域子育て向けWEBサイトに掲載いただく等連携を図っている。今後も個別の情報提供や報道発表をより積極的に行い連携に努めていく。	①
47	H30.9	広報がフェイスブックやホームページなどに頼りすぎている。 もう少し回覧板や広報紙など手にとって見える広報をするべきではないか。	区としては、広報紙を柱としてフェイスブックやツイッター等の媒体を活用し区政情報を発信している。 特に広報紙は、非常に大きな柱として区内全世帯、全事業所に配布するほか、区民の皆様の手にとって読んでいただけるよう工夫し、情報発信に努めている。	①

※分類

- ①当年度(30年度)において対応 ②31年度運営方針に反映または31年度に対応予定
③31年度では対応できないが、今後引き続き検討 ④対応困難または対応不可
⑤その他